

出生数 5 年ぶりに増加 厚生労働省調査

厚生労働省が 1 月 1 日に発表した人口動態統計の年間推計で、2015 年に生まれた日本人の赤ちゃんが 100 万 8,000 人（前年比 4,000 人増）で、5 年ぶりに増加したことが分かった。

出生数は、200 万人を超えた第 2 次ベビーブーム（1971～74 年）をピークに減少。2014 年は 100 万 3,539 人（確定値）で、初の 100 万人割れが迫っていたが、30 代女性が 1～6 月に産んだ赤ちゃんが前年より 1 万人多かったことで全体の出生数を押し上げた。

死亡数は 2 万 9,000 人増の 130 万 2,000 人で戦後最

多。出生数から死亡数を差し引いた自然増減数は 29 万 4,000 人減で、人口の減少幅は過去最大となった。

一方、結婚は 9,000 組減の 63 万 5,000 組、離婚は 3,000 組増の 22 万 5,000 組だった。

わが国の人口は 2005 年に初めて自然減に転じ、2007 年以降は連続で死亡数のほうが出生数を上回っている。5 年ぶりに出生数が増えたことについて、厚労省は「雇用情勢が改善したことなどが影響した可能性がある」と分析している。

（福祉新聞・第 2747 号 2016 年 1 月 18 日）

ケアマネ合格率 15.5% 受験者数も 4 万人減

厚生労働省は 1 月 4 日、第 18 回介護支援専門員（ケアマネジャー）実務研修受講試験（2015 年 10 月 11 日実施）の合格率が 15.5%だったと発表した。前回より 3.7 ポイント減り、第 14 回試験（2011 年度）の 15.3%に次ぐ低水準となった。

受験者数は前回より約 4 万人減の 13 万 4,884 人。合格者数は約 1 万 2,500 人減の 2 万 923 人で、過去最少となった。今回から介護福祉士や社会福祉士、医師などの資格保有による一部解答免除が廃止され

た影響があったとみられる。

合格者を職種別にみると、介護福祉士が 1 万 3,203 人（63%）で最も多く、看護師・准看護師が 2,392 人（11%）、社会福祉士が 1,713 人（8%）だった。合格率は第 1 回試験から 04 年度の第 7 回までが 30～40%台。05 年度の第 8 回からは 20%台が続き、11 年度の第 14 回からは 10%台が続いている。

（福祉新聞・第 2747 号 2016 年 1 月 18 日）

「ノーマライゼーション 障害者の福祉」1 月号・特集目次

〈特集〉障害者差別解消法施行でどう変わる、私たちの暮らし

【新春メッセージ】

障害者差別解消法への期待（高村正彦）

【座談会】

障害者差別解消法が地域で果たす役割（勝連文緒・金 政玉・高梨憲司・土岐達志・〈司会〉中西由起子）

スタート地点に立った障害者差別解消法（太田修平）
「合理的な配慮」理解推進のための調査～八王子市
権利擁護推進部会の取り組み（光岡芳宏）
誰もが暮らしやすいまちづくりをすすめる条例の
会仙台から見た“仙台市差別禁止条例（仮称）”
の顛末報告（杉山裕信）
石狩市手話条例制定運動の経緯（佐藤英治）